

長崎の未来と、観光まちづくり。

～「暮らしのそばに、ほら世界。」いつもの長崎から、これからの観光とまちを考える～

「まちを知る」から、「まちと関わる未来を描く」一冊へ

一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会
(DMO NAGASAKI)
地域連携課

背景・ねらい

長崎市の観光を「観光地の紹介」にとどめず、市民の暮らし、地域文化、仕事、交流、経済とのつながりから学ぶ。「観光まちづくり」を、観光を通して地域の暮らし・文化・産業・交流を豊かにし、暮らす人にも訪れる人にも魅力あるまちを、地域みんなでつくることと捉える。若い世代が長崎の良さと課題を知り、地域の魅力を守り、伝え、未来につなぐために自ら関わる意識を育むとともに、訪れる人も長崎を知り、理解を深め、地域を大切にし、応援する存在へとつながることを目指す。



目的

観光まちづくりへの
理解・参画
意識の向上

シビック
プライド
の醸成

目指すのは、「まちとの関わり・つながり」

「知る・気づく」から地域への愛着と誇りを育み、「伝える・関わる」へと、地域に主体的に関わる意欲を段階的に醸成する。

知る

長崎を知る
観光を知る
つながりを学ぶ

気づく

魅力を発見
価値発見
課題を知る

誇る

愛着を深める
誇りを育む
大切に思う

伝える

自分の言葉
魅力を伝える
共有する

関わる

自分ごと
行動する
未来につなぐ

企画方針

読本制作における「目的・対象・編集方針」の方向性

WHY | なぜつくるか

観光から、まちの未来を考える

観光を単に観光地を訪れる・受け入れることとして捉えるのではなく、地域の暮らしや文化、産業、人との交流を豊かにし、地域の未来をつくる『観光まちづくり』の一つとして理解する。そのうえで、自分自身も長崎の魅力を守り、伝え、未来へつないでいく一員であることに気づき、地域に関わろうとする意識を育む。

WHO | 誰に届けるか

小学校高学年・中高校生から一般市民まで そして訪問客の理解・活用へつなげる

学校教育での活用を軸としながら、公共施設等の待合スペースで一般の方にも手に取っていただける、幅広い世代に親しまれる読本を目指す。

観光教育：
長崎市内の小学校高学年・中学生・教員
探究学習：
長崎市内の高校生・教員
公共・観光施設、観光案内所等の配架：
一般市民

HOW | どう見せるか

デザイン性を高めた つい見たくなる開かれた読本

教材感を抑え、写真と編集で魅せる、つい「いつも見たくなる読本」。「長崎のふつうは世間のふしぎ。」をイメージした洗練されたデザインとし、市民ワークショップで掘りおこした声や地域の魅力を紙面に反映する。



タイトル案

観光まちづくりを本書の主軸・テーマとして明確にすることからタイトルを決定する。

長崎の未来と、観光まちづくり。

～「暮らしのそばに、ほら世界。」いつもの長崎から、これからの観光とまちを考える～

スペースで

観光まちづくりと、長崎のこれから。

～「暮らしのそばに、ほら世界。」いつもの風景から、観光とまちの未来を考える～

みんなで考える、長崎の観光まちづくり。

～「暮らしのそばに、ほら世界。」いつもの長崎から、まちの未来を考える～

コンセプト

読本制作における「コンセプト」の方向性

長崎市観光マスターブランド

暮らしのそばに、ほら世界。



まちとの関わり・つながり

観光まちづくりから考える、長崎のまちと暮らし、そして未来。

「観光を知ること、長崎の未来を考えること。」

観光を入口に、長崎の歴史や文化、暮らし、産業、人との交流を見つめ直し、その魅力を未来へどうつないでいくかを考える。観光が地域にもたらす価値と課題を知り、暮らす人にも訪れる人にも魅力ある長崎をみんなで作っていく「観光まちづくり」への理解と関わりを育む。

市民ワークショップにおける意見の掘りおこし

市民自身が長崎の魅力や価値を見つめ直し、観光と暮らしのつながりや、これからの長崎の観光まちづくりについて考える機会をつくる。そこで生まれた言葉・視点・アイデアを編集素材として収集し、読本のコンテンツやメッセージに反映する。

WORKSHOP 01 | = 「今」を考える 「長崎の観光まちづくりについて話してみよう」

ターゲット | 長崎市民を中心に、20～60代程度の幅広い世代を想定。
域外の人参加も促す。

参加人数 | 20～30名程度、4～6名×5グループ程度（域内×域外）

所要時間 | 約2時間

プログラム内容 |

0:00～0:10 オープニング(読本制作の目的、ワークショップの趣旨を共有
「観光まちづくり＝観光客のためだけの取組ではない」という考え方も共有
0:10～0:30 STEP1 私が好きな「長崎の暮らし・風景」「長崎らしい」
「これからも残したい」と思うものを個人で書き出す
例：路面電車、坂、祭り、食、まちなみ、人とのつながりなど
0:30～0:55 STEP2 観光客の目で見てみる自分たちには当たり前なのが、
訪れる人にはどんな魅力に見えるのかを考える。
0:55～1:20 STEP3 暮らしと観光のつながりを考える観光によって
「良くなっていること」「大切にしたいこと」「困っていること」を整理する
→ 暮らし・文化・仕事・交流・交通・環境などへ視点を広げる
1:20～1:40 STEP4 長崎らしい観光まちづくりとは？
「暮らす人にも、訪れる人にも〇〇な長崎」という形でグループごとに考える
1:40～1:55 STEP5 私たちの観光まちづくり宣言
各班で「長崎の観光まちづくりで大切にしたいこと」を一文にまとめる
1:55～2:00 クロージング

WORKSHOP 02 | = 「未来」を考える 「10年後の長崎の観光まちづくりを考える」

ターゲット |
「まちづくり」に関心を持つ層。若手社会人、大学生、子育て世代、地
域活動関係者、観光・交通・商業・文化等の事業者など。

参加人数 | 20～30名程度、途中グループワークあり

所要時間 | 約2時間

プログラム内容 |

0:00～0:15 オープニング読本制作の目的、ワークショップの趣旨を共有
0:15～0:35 STEP1 10年後も残したい長崎「これだけは10年後も残っていてほ
しい」と思う長崎の魅力や価値を個人で書き出す
0:35～0:55 STEP2 変わってほしい長崎暮らす人・訪れる人双方の視点から、
暮らし・観光・交通・環境・文化継承等の課題を整理する
0:55～1:20 STEP3 10年後の理想を描く「暮らす人にも、訪れる人にも魅力あ
る2036年の長崎」を想像し、理想の状態をグループで描く
1:20～1:40 STEP4 未来から逆算するその未来を実現するために、市民・事業
者・行政・観光客など、それぞれの立場から「今からできること」を考える
1:40～1:55 STEP5 私たちの未来宣言各班で「10年後の長崎は〇〇なまち」を
一文にまとめ、そのために自分たちができることを一つ提案する
1:55～2:00 クロージング

章立て（案）

観光まちづくりを「知る」ことから始まり、長崎の魅力への「気づき・愛着」を育み、最後は自ら「伝える・関わる」へ。
段階的に観光まちづくりへの理解と参画意識を育む構成。

5段階	章タイトル	内容	備考
知る・考える	第1章 「いいまち」って、どんなまち？	「いいまち」とは何かを身近な暮らしから考え、暮らす人にも訪れる人にも 魅力あるまちと、観光まちづくり を知る。長崎市観光マスターブランドの紹介を含む。	「いいまちとは？」という問いから、暮らしとまちの魅力、「暮らす人にも訪れる人にもいいまち」とは何かを考える導入章。観光まちづくりの基本を知る。
知る・気づく	第2章 長崎の物語をひもとく	世界との交流、平和、歴史、食、祭り、町並みなどを、 現在の暮らしへと受け継がれてきた物語 として紹介する。100年に一度の大変革にも触れる。	歴史を過去の出来事だけでなく、現在の長崎とのつながりから伝える。地域の歴史・文化を知り、受け継ぐ。
気づく・誇る	第3章 わたしたちの「ふつう」を見つめよう	市民には当たり前風景や文化、暮らしの中から、 長崎ならではの魅力や価値 を再発見する。	「地域資源・地域の価値を発見する。長崎のふつうは世間のふしぎ」を活用。
知る・誇る	第4章 暮らしと観光は、どうつながっている？	観光消費や仕事、文化継承、交流などを通して、 観光が地域や市民の暮らしにもたらす効果 を理解する。観光が経済・仕事・文化・交流・暮らしに与える効果を知る。	「マーケティング動向調査」等を活用。京都DMOの読本のデータ活用を参考にする。5年に1度はデータを更新する。
誇る・関わる	第5章 暮らしを大切にする観光を考えよう	混雑、環境、マナー、地域住民の暮らしとの調和など、 事業者を含む住民と観光客双方にとって持続可能な観光 を考える。	観光のメリットと課題の両面から、「これからの観光」を考える。
知る・伝える	第6章 長崎の魅力を支える人たち	観光、交通、飲食、農水産、文化、平和、MICE、スポーツなど、DMO含む 観光まちづくりを担う多様な人と仕事 を知る。	観光に関わる仕事や人の幅広さを伝える。MICEと観光は別軸。
伝える・関わる	第7章 わたしたちが伝えたい長崎	地域の宝や伝えたい魅力を考え、 自分たちが望む長崎の未来と、そのためにできること を提案する。自分も観光まちづくりの一員として、 未来を考え行動 する。	長崎の観光まちづくりの未来を考え、自分たちにできる提案・行動につなげる。
もっと知る	付録 長崎市観光辞典	名所、偉人、文化、食、イベントなど、 長崎の魅力 をテーマ別に紹介する。	本編を補完する資料編。Webコンテンツへの展開も想定。

世代に応じた紙面デザイン（オプション案）

観光を通して地域の魅力や課題、まちの未来を考える教材としても活用しやすい紙面を目指す。

対象	学びのステップ	主な見せ方・活動	紙面マーク
小学校高学年	発見する	写真・イラスト、クイズ、地域の宝探し、家族への聞き取り	「見つけよう」
中学生	考える	観光客目線のまち歩き、地域課題の発見、1分間紹介、インタビュー	「考えよう」
高校生	探究する	観光消費と地域への波及、持続可能性、地域課題、観光まちづくりの企画・提案	「探究しよう」
教員・一般市民	深める・共有する	解説・データ・市民の声・地域事例を通じて、長崎と観光への理解を深める	基本本文

紙面マークイメージ

共通仕様



ふりがなを基本とし、専門用語には簡潔な解説を添えるなど、幅広い世代が理解しやすい表現とする。
写真・図解・問いかけを効果的に組み合わせ、デザイン性と読みやすさを両立。
学校教育や探究学習など、観光教育の教材としても活用しやすい紙面を目指す。

学習指導要領などを意識した構成にするため、専門・学術者（例：長崎大学 教育学部 准教授 井手 弘人 氏）の意見も反映する。